

☆ご夫婦は二人暮らしで、簡単な日常生活ができずに困っていました。近くに子供は住んでおりません☆  
当時、施設に入ることも相談しましたが、2年経った今でも、何とか二人で暮らしています。

それは、介護サービス（ヘルパー）の助けを借りながら（掃除や買い物、ごみ出し、通院等）生活していますが、それ以上に町内会皆さんで隣近所の見守りサポートがなければ施設に入っていたでしょう。

認知症になっても、今まで同様、住み慣れた家と地域で暮らし続けるためには隣近所の助けが大切です。

☆暮らしがぶり・・・

お二人とも受け答えはできません。昔のことはよく覚えていますが、5分前の記憶はありません。そのため同じことを何度も話します。今日が何月何日で何曜日なのか、季節も分かりません。

自宅内は毎日何度も箒とちり取りで掃除をしており、それなりに片付いています。冷蔵庫の中は賞味期限切れのものや同じものがいくつも入っています。妻はご飯を炊くことはできませんが、料理を作ることはできません。食事は夫が一日に数回買い物に行き、できあいの物を食べています。妻は外に出ることを嫌がり外出することがありません。お二人とも髪や髭もボサボサで、匂いはしませんが、お風呂に入っている様子はなく、いつも同じ洋服を着ています。

☆どんなことに困るのか・・・

・必要な手続きができません。

↓コロナの給付金の時には手続きができたものの、手続きをしたことを忘れて何度も役場に来ることがありました。

・金融機関に行ってもお金が入りません。

↓預金を引き出すための書類の書き方や通帳の印鑑がどれか分かりません。金融機関の方が毎回手伝ってくれました。

・物を失くしてしまいます。

↓郵便物や保険証、リモコン等を失くしてしまいます。電気のリモコンを失くした時には夜に電気を消せなくなり、ブレーカーを落としてしまいました。翌日の夜に電気がつかず停電だと思ひ込み、近所の人に助けられました。

・ゴミの捨て方が分かりません。

↓倉庫から異臭がすると小学生から相談がありました。倉庫にゴミが溜まっており、捨てられずにいたので、介護保険のヘルパーを利用して捨ててもらいました。

・病院に行けません。

↓病院へ行って次回の予約を取るものの、予約日に病院に来ません。病院から本人へ電話をしますが何のことか分かっていません。また、薬を処方されても飲むことができません。

・必要な家事道具（ティッシュや洗剤等）を買えません。

↓ガス台の火がつかなくなりました。ガス台の電池が切れていたので、電池を買わなければならないことを伝えても買うことができません。

（2年以上前に関わりを開始したケース）七飯町福祉課地域包括支援係